

函館市中心市街地活性化協議会平成23年度第2回総会 記録

1. 開催日時 平成24年1月27日(金) 午後2時～3時25分
2. 開催場所 函館商工会議所 3階会議室
3. 出席者 別紙のとおり
4. 議事の結果内容

定刻に事務局より総会開会を告げ、規約に基づき議長に永井英夫会長を選出し、議事に入る。

第1号議案 函館市中心市街地活性化基本計画の素案について

函館市経済部阿部参事から別添資料により説明がなされ、これを議場に諮ったところ満場異議なく原案どおり承認された。当議案での出席者からの発言は下記のとおりである。

(小笠原勇人：新都心五稜郭協議会副会長)

- ・ グルメシティの問題で本町地区の活力が落ちている。五稜郭地区としては当協議会とは別に、市へ提言書を提出する予定である。

(入江洋之：函館市経済部中心市街地等再生担当参事1級)

- ・ グルメシティの問題は、幾度となく所有者と話し合いを重ねているがなかなか進まない。市としてもこの問題を早急に解決したいと考えている。所有者とは協議中でまだ確たることは言えないが、市が積極的に関わっていくべき「最大の懸案」という認識にある。

(中野 豊：新都心五稜郭協議会会長)

- ・ 素案を見ると街が良くなるとの期待が膨らむが、当案がもう少し具体化した時点では、市民を巻き込みどう参画してもらうかが肝要になる。

(入江洋之：函館市経済部中心市街地等再生担当参事1級)

- ・ 素案は協議会と同時並行で国と協議していき、パブリックコメントで広く市民の意見を募集する。基本計画の原案策定は7月だが、事前に事業ベースやスケジュール等を協議会に提出して議論する。協議会の中活法の中で法律に基づいて意見を聴かなければならないという重い組織であり、計画を事前修正した上で幅広い見識によりグレードアップさせた原案を作り国に申請したい。

(渡辺良三：(株)はこだてティーエムオー代表取締役社長)

- ・ 新規事業の「街なか居住推進事業」と「ヤングカップル住まいリング支援事業」はどう違うか。

(入江洋之：函館市経済部中心市街地等再生担当参事 1 級)

- ・ 「ヤングカップル住まいリング支援事業」は西部地区から駅前地区にかけての区域で5年間限定で若い世代に家賃補助するものであり、「街なか居住推進事業」は全エリア対象に考えているものである。

(渡辺良三：(株)はこだてティーエムオー代表取締役社長)

- ・ 借上住宅制度はどうなっているか。

(入江洋之：函館市経済部中心市街地等再生担当参事 1 級)

- ・ 6棟建てた駅前地区は人口が減っていない。底地が有りある程度の規模が必要との制約と、マスタープラン上はあと50戸位しか建てられないという計画上の限度がある。家賃補助ではなくて建主に対する支援措置というのも議論し、いい手法を考えたい。

(木村健一：公立はこだて未来大学教授)

- ・ 中心市街地の課題の中で「回遊性の確保」が掲載されているが、二つの核となる大きな地域をどう結ぶかが一つの課題と思えるが、回遊性に関する項目を叩き台の中に明確に示した方が、関係者の合意形成の上で議論が進めやすいのではないかと。

(入江洋之：函館市経済部中心市街地等再生担当参事 1 級)

- ・ 内閣府から、函館の計画は鉄アレイ型で非常に珍しい形であり、居住性に特化するなどもう少しアクセントが欲しい旨言われたが、病院・文化施設等も多いので回遊性の面は施策でクリアできると考えている。特に鉄アレイの握りの部分を克服するようにとの指摘も受けたが、この部分は市民や協議会からの意見を積極的に取り入れていきたい。今回の素案の中では具体化出来なかった。

(谷岡俊則：渡島総合振興局商工労働観光課課長)

- ・ 道の施策は事業活性化からものづくり支援等いろいろな側面を持つが、観光も含めた視点ではまちづくりに関連付けできるものがある。事業計画の位置づけも含めて産業振興条例のようなものを総合的に市で検討してはどうか。ガゴメショップは事業主体が民間の位置づけになっているが、ものづくり支援（産学官連携）という観点から事業計画を進めてほしい。

(入江洋之：函館市経済部中心市街地等再生担当参事 1 級)

- ・ スイーツ、ガゴメは今年度まで市の委託事業として駅前で民間事業者が行っている。24年度からは委託ではなく民間が独立して運営する。市が手を引くという事ではなくPRについて今後も市は関わっていく。平成27年の新幹線開業までには確固たるものとしたい。どの分野においても売れるものは売っていくという観点を持ちたい。計画期間中、協議会メンバーにも進捗状況の確認をしていただき、社会情勢が変化する場合、その都度新しい事業を必要があれば入れていくことも可能である。柔軟に対応していく。

(畠山 大：北海道教育大学教育学部函館校准教授)

- ・ 函館市民となり5年になるが、函館は西と東の二つに分かれて見える。街おこしの取り組みや担い手は西側に集中している。東側は産業道路、美原地区、上磯ダイエー等が生活軸となっており、大門のことや、西部地区のバル街等について知らない人が多い。今回の計画もややもすると、西側だけのこととして東側の若い市民層がそっぽを向くかもしれない。逆説的な言い方をすると、成功するか否かはイメージ図から外れた人達の理解・協力が如何に得られるかではないか。今まで大門地区一辺倒だったものが五稜郭・本町地区に軸が移るということは非常に良いことと思うが、北海道新幹線新駅から五稜郭・本町地区への交通手段がレンタカーしか記載されていない。公共交通の整備をしなければならない。空港から新駅までのアクセスの中で五稜郭を位置づけるのであれば、空港からは路面電車が利用できない、定期バスも観光客が利用するにはあまりにも貧弱、こういった面の解決が必要。グルメシティに公共施設を集めるのも悪くはないが、青森のアウガには商業施設が多く入っている。若い人も魅力を感じるような今までの大規模商業施設にはないものを考えないといけない。

(永井英夫：函館商工会議所副会頭)

- ・ 若い人が魅力を感じて集まるというのは、例えばどういうものか。

(畠山 大：北海道教育大学教育学部函館校准教授)

- ・ 授乳施設があり子供連れでも歩けるような飲食施設。学生からは函館は買い物する場所がないと言われるが、私から見ると小さくてもおもしろい商店が沢山あるし、大規模店としてはメガドンキなどがあるが、雑貨屋や文房具屋、いわゆる「ロフト」みたいな店があると面白い。

(入江洋之：函館市経済部中心市街地等再生担当参事 1 級)

- ・ 西部地区の活性化事業でロードヒーティングやインターロッキングを行ったが、他地区から、「何故この地域にばかりお金をかけるのか」と言われる。西部地区は観光面はもとより市民のやすらぎの場としても大事な場所である。100人に中心市街地が大事だと説明して何人の納得が得られるのかとの問題もあるが、和光のキッズスタジアムは年間6万人の利用があり、「上湯川から7年ぶりに駅前に来た」、「この施設があるから来た」との声もある。魅力ある商店など目的があれば遠くからでも来る。特色ある公共施設と商業施設もなければ人は来ない。交通アクセスについてもバス事業者とバス停留所の話をしている。交通アクセスの問題は回遊性では一番重要である。歩いても楽しめるエリアも必要である。

(柳町光徳：(社)北海道宅地建物取引業協会函館支部長)

- ・ イオンが七飯町の峠下に出店する計画があるが、もし出店するとこの計画が一瞬にして水泡に帰す可能性がある。阻止することは可能か。

(入江洋之：函館市経済部中心市街地等再生担当参事 1 級)

- ・ 個人的見解としてだが、イオンの出店はほぼ不可能である。都市計画上も無理ではないか。周りが反対する中で果たして出来るのか。

(谷岡俊則：渡島総合振興局商工労働観光課課長)

- ・ 4万㎡だと3市町の合意がないと難しい。農地の問題もあり障害は大きい。

(永井英夫：函館商工会議所副会頭)

- ・ 市民を巻き込むことが非常に重要である。計画もそうだが、施設が出来たり、イベントひとつ行うにしても市民に周知徹底することは重要である。今までの対応ではもの足りなく、今後充実していかなければならない。せつかくの計画も市民の賛同を得て、集客、購買力が上がらないと意味がない。

(村上則好：(株)北海道銀行函館支店常務執行役員函館支店長)

- 資料にあるとおり大門・五稜郭地区は魅力のない場所になりつつある。そのような場所に事業者に投資を求めるのは難しい。函館の人達で何とかしようとも、今の状況から大きな資本で大きな施設やショッピングセンターなどを造るのは、誰が投資主体となりえるのか現実的には厳しい。市が出すわけにもいかないので、市がどれだけ投資を呼び込む優遇策を作れるのかが鍵となる。建ぺい率や容積率をダイレクトにドラスティックに変えることができるのか。立地に対する補助もできるのか。その点が何も語られておらず大きな課題と思う。もう一点は土地がない。函館に魅力を感じて投資したいという人は札幌にもいるが土地がない。大規模商業店は大きな駐車場を必要とするが土地を探すも見つからない。さらに郊外にショッピングセンターが分散している中で土地が確保できても出てくるのか、この点を余程真剣に考えないとならない。極端な話、野球場・競技場を全部潰してイオンを呼び込むくらいのことを考えないと大門・五稜郭地区は再生できないのではないかと。これくらいドラスティックなことを考えないと、中心部に投資を呼び込んで活性化しこの街を再生するのはかなり厳しいのではないかと。

(入江洋之：函館市経済部中心市街地等再生担当参事 1 級)

- 商業立地、固定資産税等が検討の対象になっていくが、野球場を潰すというのは5年間の中では無理である。対応できる部分とできない部分、しなければならない部分などあるが、覚悟を決めなければならないと考えている。

(布村隆二：(株)NAアーバンデベロップメント代表取締役)

- 和光ビルをどうするかは何年も前から検討しているが、街なか居住は重要なことと考えており、今マンションの話が出ているが、健康やメディカル関係を含めて検討している。よく言われるのが函館市は駅前をどう見ているのか。今まであまり市が中心市街地に力を入れているようには見えなかった。その場合投資は難しくなる。今回こういう計画が出るということは非常に良いことであり、今後、資本投下が出てくることを期待している。

(入江洋之：函館市経済部中心市街地等再生担当参事 1 級)

- アイデアや意見があれば、その都度、市へ、メール、FAXなどで適宜出していきたい。

第2号議案 当協議会平成24年度事業計画(案)及び収支予算(案)について

事務局より別紙資料の説明がなされ、これを議場に諮ったところ、満場異議なく可決した。

以 上

函館市中心市街地活性化協議会 平成23年度第2回総会

出席者名簿

日 時：平成24年1月27日(金)

午後2時～3時30分

場 所：函館商工会議所 会議室

【役員】

会 長	永 井 英 夫	函館商工会議所副会頭
副会長	渡 辺 良 三	(株)はこだてティーエムオー代表取締役社長
〃	中 野 豊	新都心五稜郭協議会会長
監 査	藤 森 和 男	(社)函館国際観光コンベンション協会専務理事
〃	奥 野 秀 雄	函館市町会連合会会長

【会 員】

函館商工会議所専務理事	酒 井 康 次	(順不同)
(株)はこだてティーエムオー取締役	出 村 喜 文	
新都心五稜郭協議会副会長	小笠原 勇 人	
(株)NAアーバンデベロップメント代表取締役	布 村 隆 二	
北海道新幹線新函館開業対策推進機構理事	矢 野 一 英	
北海道新幹線新函館開業対策推進機構幹事	黒 川 宣 之	
函館市商店街連盟副会長	川 崎 正 博	
函館市経済部中心市街地等再生担当参事1級	入 江 洋 之	
(株)北洋銀行函館中央支店執行役員支店長	高 橋 正 幸	
(株)北海道銀行函館支店常務執行役員函館支店長	村 上 則 好	
函館商工信用組合理事長	山 本 富 靖	
函館信用金庫常務理事	久 永 信 二	
社会福祉法人函館市社会福祉協議会常務理事	若 狭 正 男	
(社)北海道宅地建物取引業協会函館支部支部長	柳 町 正 光	
国立大学法人北海道教育大学教育学部函館校准教授	嶋 山 大 一	
公立大学法人公立はこだて未来大学教授	木 村 健 淳	
学校法人野又学園常務理事	野 又 淳 司	

【オブザーバー】

国土交通省北海道開発局函館開発建設部道路計画課課長	赤 川 裕 志	(順不同)
北海道渡島総合振興局函館建設管理部建設指導課課長	加 藤 俊 薫	
北海道渡島総合振興局産業振興部商工労働観光課課長	谷 岡 俊 則	

【随行者】

北海道渡島総合振興局函館建設管理部建設指導課主査	月 田 昌 行	(順不同)
北海道渡島総合振興局産業振興部商工労働観光課主査	上 村 幸 生	

【事務局】

(株)はこだてティーエムオー企画部長	佐 藤 敏 夫
新都心五稜郭協議会理事	青 田 貴 樹
函館市経済部中心市街地等再生担当参事3級	阿 部 村 史
函館市経済部中心市街地等再生担当主査	宿 村 上 也
函館市経済部中心市街地等再生担当主査	井 篠 原 豪
函館商工会議所経営支援課課長	鎌 村 上 修
函館商工会議所経営支援課係長	田 田 真 一
函館商工会議所経営支援課係長	鎌 田 真 紀

以上35名